

我が家の家庭教育

篠原越川 由子

農作業の忙しさに思いの半分も子供達に接してやれない私ですが、「おはよう」「行って来ます」「おやすみ」と一日が終わり、子供が眠りにつくと「今日も元気で頑張ったな」とほっとした気分になります。

今春、農業高校に進学する息子を頭に二男一女に囲まれ、三世同居の家族八人が健康に暮らせることに喜びを感じます。家庭教育といっても特別な方針があったわけではなく、四人の子供は小さい時

から田畑と一緒に連れて歩き、土にまみれて遊び、働く親の傍で育ってきました。夏休みなどには、草取りやカードの袋入れ、切り落した枝の始末など年齢に応じた仕事をさせています。農業は、仕事の大変さや作物を育てる楽しみ、収穫の喜びを家族皆で感じ合えるよさがありますが、反面、定期的な休みがとりにくく、日が暮れるまで働いてしまう事が多いので勉強を見てあげたり、一緒に遊んだりすることがなかなかできません。ですから仕事を通してのふれ合いや、夕食の時間がお互いの気持ちを通わせる場となるように心がけています。

一人の思いや願い、悩みを聞いてやる心のゆとりがもてずに、事あるごとに後悔の念が片隅に残ることのくり返しでした。それにも拘らず素直に成長してくれたのは、祖父母が私の至らぬ部分を補うように接してくれ、父親として夫が適切なアドバイスを与えてくれたからだと思っています。大人への階段を登り始めた子供に、親としてどのようなかかわり方をしていたらよいのか、これまでの反省をふまえて考えながらつき合っていこうと思えます。家族の和と教育のための一致した思いがあつてこそ、子供達との信頼関係が生まれてくるのではないかと考えています。その意味では、これから、一致点を追求するために夫との会話を始めなければなりません。

磨 墨 桜

市野原



市野原の馬頭観音堂に磨墨桜と呼ばれた桜がありました。

昔、梶原景時という人が名馬磨墨をこの樹につないだときれています。桜の周りの草を病気の馬に食べさせると、馬が元気になるといわれ、各地から馬主が集まったそうです。今は跡地となりましたが、かつては真白な桜を咲かせていたということです。

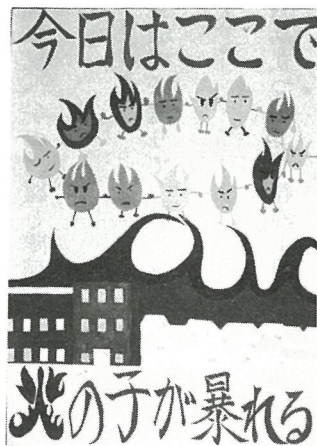
カット 住民福祉課 椎名雄一

防火ポスター展

八日市場市外三町消防組合

(光・野榮・横芝三町)が春の火災予防運動期間中に行なった小・中学校児童、生徒による防火ポスター作品展で、椎名綾子さん(東陽小六年)と土屋佳子さん(光中二年)の作品が最優秀賞に選ばれました。小学校の部では一、一九二点の応募作品の中から四点が、中学校の部では三四三点の中から一点が最優秀賞として選ばれたものです。入賞者(小学校の部) 敬称略

最優秀賞 椎名綾子(東小六) 消防組合長賞 藤代知之(東小二)・齊藤真由美(南小六) 危険物安全協会長賞 半田照光(日小二)・布施和彦(南小六) 大木和代(東小六)・鶴ノ澤典子(白小六) (中学校の部) 敬称略 最優秀賞 土屋佳子(二年) 危険物安全協会長賞 越川久美子(二年) なお、入賞作品は二月二十七日から三月六日までの間、町民会館で展示され、会館を訪れた人たちの防火意識の高揚に一役買っていました。



土屋佳子さんの作品



椎名綾子さんの作品